

鉄道

月刊

1960年5月号 Vol. 10 No. 5

原色版 東北線電化用 ED71形交流電気機関車
 表紙 「通過列車」 柴山 善弘
 付録 特別急行列車用クロ151・サシ151形形式図 (1/100)

グラフ

陽 春.....	康乗 章.....	7
加・米のディーゼル動車.....	木村 敬.....	8
『高原列車よさようなら』.....	宮崎 輝夫.....	10
五 月 晴.....	阪倉 守.....	31
特急つばめ・はとの面影.....	高松吉太郎・相沢靖浩・青木俊治.....	32
話題つきぬ山科.....	加藤弥寿雄.....	34
南大阪線<近畿日本鉄道車両集>[7].....	高松吉太郎・宮下恵一.....	36
わだいのくるま(71) 関門用交直両用電気機関車E F30形.....		38
“大いなる旅路”<東映スコープ>.....	東映提供.....	59
新装なる四国の玄関・ひでの春の第1陣出発・川崎駅スカ線ホーム成る・自動列車停止装置試験モハ101で行なわる・上越線にゆのさと号運転開始・学者グループ新型気動車で招待・完成した大船電車区・武藏中原電車区もほぼ完成・初目見えのロータリーディスク除雪装置付ディーゼルけん引車・大阪地下鉄新車5000形系4連・東海道線長良川(下り)橋梁かけかえ終る・こだま号の前頭改造《福島電化特報》		
トピック		60
フォト		
わだいのくるま(72) 東京急行新ステンレスカー6000形.....		62

記事

今月の話題「宇都宮一福島間全面電化」.....	3	
特急電車「つばめ」と「こだま」.....	星 晃.....	4
特急に取付けられる列車無線電話.....	小熊 滋.....	11
ED71(量産)形交流電気機関車.....	栗田 志朗.....	12
新編日本鉄道史[8].....	川上 幸義.....	16
都電見聞録[5].....	江本 広一.....	20
切手に見る各国の鉄道[14].....	荒井 誠.....	24
「たから」号<誌上案内>急行列車の巻[17].....	田頭守・守屋八郎.....	26
トランス・オイロープ・エクスプレス(T E E)印象記[続].....	窪田 太郎.....	28
鉄道の話題.....		30
近畿日本鉄道[完] 私鉄車両めぐり(38).....	赤尾 公之.....	39
有史以前の蒸気機関車[終].....	小熊 米雄.....	46
台車のすべて[14].....	吉雄 永春.....	48
E D55のなぞ.....	塚田幾太郎・日高冬比古.....	52
質問に答える.....		54
読者短信.....		56
“大いなる旅路”を見て.....	小熊 米雄.....	58
車両の動き.....		63
3月のメモ帖、TTKだより、後部車から.....		64



今月の話題

宇都宮一福島間全面電化

東北本線宇都宮一福島間 163.3キロは、この4月1日をもって本線の全列車の電化を完成した。工事着工以来満3カ年、地上設備費48億5,000万円、車両費22億4,000万円を要したもの、これによって上野一福島間270キロ(奥羽線をふくめると313キロ)に無煙列車が走ることになった。距離において東海・山陽につぐ電化区間である。

この電化区間の特色をあげると①黒磯一福島間 110キロは本格的交流電化区間②電気施設に画期的新技術を採用③年間利益率9%④けん引定数の向上⑤速度向上などがあげられる。

本格的交流電化区間であることは周知のことおりであるが、この区間の電気運転操作には世界でも例のない超短波無線を福島一仙台間に採用、白河一福島間の変電所および区分所は無人化され、仙台コントロールセンターで操作されること、動力費は白河一福島間で年間5億440万円が2億79万円となり、実に3億円の節約となり、投下資本39億3,385万円に対する年間節約は1億4673万円にのぼり、利益率は9.4%と高率であること、けん引定数は旅客列車が230トンから500トンへ、貨物列車は補機2台で1000トンが補機1台で1000トン輸送が可能となったこと、速度向上では宇都宮一福島間で平均急行で13分、普通列車で10分、貨物列車は平均40分短縮が可能となったことなど、電化サマサマである。

なお、これまでの福島第1・第2機関区が統合され新たに「福島機関区」が生れたことが特記される。

表紙「通過列車」 柴山善弘
 中央本線小淵沢駅通過の407レ
 ミニD F505・509重連 34-7-2
 リコーダイヤコードLリケノン
 F3.5 級 f.5.6 1/250ネオパンSSS